

疑われる

新型 コロナに 感染した 子どもを見守るポイント！



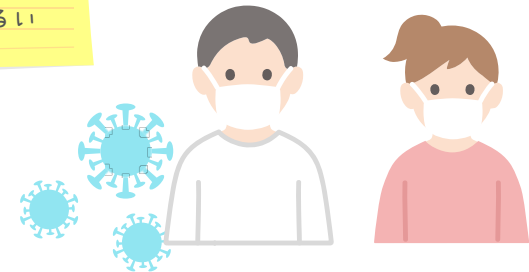
メッセージ

新型コロナウイルスに感染しても、ほとんどのお子さんが**1～2日の発熱**が続いたあとに自然に治ります。ただし、のどの痛みで水分が取れなかったり、下痢が続いたりすることで、**脱水を起こすことがあります**。そこで、自宅で療養するときには、ここで紹介するポイントを参考として、**お子さんを定期的に見守ってください**。

ポイント1：急いで受診すべき状態

- ・呼吸が苦しそう（肩で息をする、ゼイゼイしている、咳で眠れない+水分がとれない）
- ・呼吸が早い（1分間に、乳児：50回以上、幼児：40回以上、学童：30回以上）
- ・水分がとれず、または嘔吐や下痢が頻回で、**半日以上おしっこが出ていない**
- ・元気がなく、**ぐったりしている**。呼びかけへの反応が悪い。
- ・初めてけいれんした（手足を突っ張る、がくがくする、眼が上を向いている）
- ・生後3か月未満の赤ちゃんで**38℃以上の発熱**があって、下がらない場合

- ・発熱
- ・ゼイゼイ
- ・だるい



ポイント2：自宅で見守ってよい状態



38℃以上の発熱があっても、水分が取れていて、遊んだりできているのであれば、自宅で様子を見守っていただけます。急いで受診しなければならないわけではありません。なお、高熱だけで脳の障害が起きることはありません。市販の解熱剤を適宜使用しながら、ゆっくりと休ませてあげてください。基礎疾患のあるお子さんについては、かかりつけの先生に電話で相談しましょう。

電話で相談できる窓口

かかりつけ医がいるときは、
まずは電話で相談してください。



信頼できるウェブサイト



コロナと診断されていないとき

沖縄県新型コロナウイルス感染症コールセンター 098-866-2129
一般的な医療相談は、小児救急電話相談（#8000）
夜間（午後7時～翌朝8時）・土日祝日（24時間）

コロナと診断されているとき

診断後に連絡先の電話番号についての案内が
SMS（ショートメッセージ）等があります。
専用の連絡先なので、他の人に番号を教えしないでください。



小児科学会 on-lineこどもの救急 <http://kodomo-qq.jp/>
教えて！ドクター <https://oshiete-dr.net/>

市販薬の選び方

改善がないこともあります。
服用後の状態をよく観察しましょう



のどが痛い、鼻がつまるとき・・・

市販の総合感冒薬を内服します。適度な加湿でも、息が楽になることがあります。

咳が辛いとき・・・

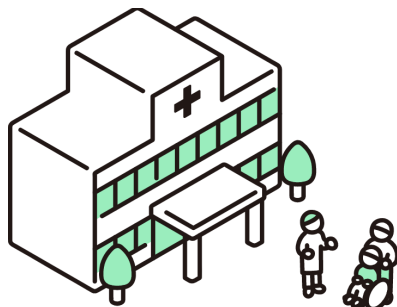
市販の咳止め薬を内服します。小さじ一杯のハチミツで咳を鎮める効果が期待できるので、1歳以上であれば試してみてください

熱があるとき・・・

発熱していて、きつそうにしているときは、解熱剤（アセトアミノフェンなど）を早めに使用しましょう。

病院を受診することにしたとき

《陽性が確定していて、県コロナ本部から健康観察されている場合は、その指示に従ってください。》



病院の入り口に、症状を確認する担当者がいます。その人に、発熱があることを伝えてください。もし、コロナと診断されている場合には、そのことも必ず伝えてください。そして、待合方法についての指示に従ってください。そのまま待合室に入らないようにしてください。

とくに夜間は救急外来が混雑していることがあります。長時間お子さんが待たされることを事前に想定してから受診の判断をしましょう。コロナ感染者のためのトイレが準備されていない（消毒に時間を要する）可能性があるため、事前にトイレを済ませてから病院に行くことも大切です。



緊急性が高くない場合（症状は軽い薬がほしい、日中は忙しいので夜にした、コロナかどうか検査をしてほしい）といった理由で、限りある夜間救急に対応を求めないでください。救急外来の担当者に長時間の電話対応を求めないでください。

診察はいらないが検査を受けたいとき

症状は軽いが検査を受けたいとき . . .

薬局などで販売されている**抗原定性検査キット**で調べてみてください。

感染者との接触の可能性があるとき（自己申告） . . .

沖縄県が設置している「**接触者PCR検査センター**」で予約することで、無料検査が受けられます。（**要予約**）。症状を有している方であっても、検査が受けられるようになりました。なお、自分で唾液が出せる人が対象です。

※

検査結果が陰性であっても、感染を否定することはできません。
症状があるときは、外出を控えるなど周囲への感染予防に協力してください。



以上のような点に注意すれば、新型コロナは、家庭で特別な対応をしなければならない病気ではありません。沖縄県は、4月末までに3万人以上の小児（14歳以下）の感染を確認しましたが、死亡者は発生していません。外出を控えるなど周囲への感染防止に配慮しながら、**発熱したお子さんを家庭で見守ってあげてください。**

